

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500475		
法人名	医療法人 福田病院		
事業所名	グループホーム スマイルライフ	B棟	
所在地	福岡県大川市向島1051-2		
自己評価作成日	平成29年8月17日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成29年10月20日	評価結果確定日	平成30年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個々の残存能力にあった家事や学習に参加して頂き、家庭的な生活環境を保ちながら「その人らしさ」を大切に、認知症の進行防止に努めています。母体が病院である為、夜間急変があっても医師からの指示がもらえ急変時の対応ができ、健康保持の為の連携がとれています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議、運営推進会議で理念を復唱し、談話室・各ユニットの入り口・各カウンターにて提示して共有と実現に心掛けている。契約時に理念の説明を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院受診時の待機室などで近所の人から声をかけてもらったり、町内のゆうゆう会に毎月1回参加している。町内の文化祭に作品を出展したり、町内の夏祭りに参加し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方より電話による介護相談があり、支援事業所の紹介やアドバイスをを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容の報告を行い入居者代表、家族代表、市職員、民生委員などの意見提案をしていただき、議事録に残し、その後スタッフで話し合い、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とはメールでの発送、受理を行っており、いつでも連絡をとれるようにしている。又、月初めに更新申請などで市を訪問しており、その際にも伝えるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で身体拘束についての勉強会を実施。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から言葉使いや声掛けの仕方について気付いたことがあれば会議で話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に情報提供を行い、外部研修に参加し全体会議で研修報告をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に各項目を細かく説明し、その後に1度持ち帰って目を通してもらい不明な点は再度説明を行い、理解を得てもらえるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者や家族に参加してもらい、意見や要望を聞いている。玄関先に意見箱を設置している。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット別会議や全体会議で意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回行う自己評価を振り返ってもらい、研修や資格取得のキャリアアップを図っている。資格手当や主任制度がある。職場環境や人材育成に力を入れている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は、性別・年齢に関係なく雇用しており、病院退職後の嘱託職員もいて差別なく安心して働ける環境を目指している。職員の特技や個性が生かせるよう役割をもってもらい、各自の主導権を大切にしている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	スタッフ1名が研修に参加し、全体会議で報告会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート、正職員に限らず、研修や勉強会の知らせが来たら提示し、参加を促し、参加者は会議にて報告会を実施している。育成については年2回自己評価をしてもらい経験に応じて資格取得を働きかけている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が仲介となって同業者ネットワーク作りを行っている。それに参加し、困難事例や意見交換などを行い、サービスの向上に努めます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、御家族、担当者のSWから詳しく話を伺い御本人の思いや希望に耳を傾けて、信頼関係を築くように努めている。御本人の言葉は記録にも記入し、全職員で把握できるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望や思いを聞くためにスタッフと御家族がゆっくり話が出来る環境を作っている。入居直後は面会の回数を増やして頂き、御家族の不安や利用者の暮らしぶりを話し合いながら御家族との関係を深めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた本人や家族と十分に時間をかけて要望を伺う。その際本人のADLや希望をしっかりと聞き取り調査し、他機関と連絡を取りながら対応するようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意とすることや生活の知恵などを共に調理や掃除中の談話を通じて教えてもらい、常に感謝と敬愛の心を言葉や仕草で伝えるようにしている。ちょっとした会話や雑談の中より様々な生活習慣や昔の苦労話など聞き共感し合う関係を築くようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、些細な事でもマメに連絡をとり、可能な限り面会や外出の機会等を依頼している。来所の際には小さな変化や本人の希望なども報告や相談を行い、入居者のことを考え、理解して頂けるようにしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの人間関係をきちんと把握し、家族以外でも知り合いや友人関係の方には気軽に面会して頂けるように声掛けしている。入居者が訪れたい場所は誕生日企画の外出で希望される場所に行けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の性格や好みを把握し必ず孤立しないように気を付けている。談話に誘ったり、会話の糸口を提供するようにしている。耳の遠い方でも、笑顔で身振り、手振りで見せてもらえるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族が他入居者やスタッフに会いに来られる。長期入院で退去された方でも再度申込み頂く事も多く、SWや本人の家族との連絡を大切にし、より良い関係が続くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の毎日の言動や行動、表情に目配りし、個人の心情を把握できるよう努めている。気になる方には居室などで個別に談話し希望を聴かせてもらっている。職員同士での意見交換も多くしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は本人、家族病院、施設より情報を得る。入居後は主に本人、家族に協力して頂きながら情報を取得し、スタッフ全員で状況の把握ができるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の介護記録にその日のバイタル、食事量、内服、水分摂取量や排泄状況を電子媒体に記録している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のユニット会議にて個別の支援を話し合い実践している。本人、家族から必要なニーズを掴みとれるように努めている。問題が生じた場合は本人、家族、主治医などに相談した上で再度計画を見直し変更している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全入居者の個人記録を電子媒体に記録し、ユニット全スタッフは勤務前に個人記録と申し送りノートに目を通してから勤務する事としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズや希望を取り入れた外出などを行い、企画にも力を入れている。健康面では母体の病院と連携を結び24時間体制で援助できるようにしている。母体病院の他にも往診や通院援助を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、地域住民の方にも参加して頂きホームの現状を伝えている。他にも夏祭り・文化祭にも参加している。年に1度、地域交流会を催し、入居者・職員との交流を行うようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者は母体病院がかかりつけ医であり、定期受診を付き添っている。年に1回の歯科検診を行い、必要に応じて往診を受けている。他のかかりつけ医療へも必要に合わせ付添い受診を行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理を行っている。夜間や休日にも連絡して助言や指示をもらえる。週に1回定期的に母体の病院看護師に来てもらい対応してもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と共に主治医より説明を受け病院に対しては看護サマリーで情報を提供している。入院中には退院後もスムーズに対応できるようにSWや担当看護師と連絡を取り合っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約に終末期や重度化に向けた方針について説明して同意を得ている。本人や家族の意向を確認しながらより良く暮らせるように支援していきたいと思っている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故に備えマニュアルを作成し、いつでも誰でも対応できるようにしている。また研修などにも参加し実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署員が立会い地域の方と協力し避難訓練を行っている。消火器や火災報知機について業者による定期点検を依頼している。スプリンクラーも設置済みである。災害時に対応できるように非常食も準備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に会議を行いひとりひとりの日常生活などについて話し合い自尊心を損ねないように声掛け対応を心掛けている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で本人の希望や要望を聞いて出来る限り希望に添えるように努めており、本人の意思を尊重できるよう配慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や状態に応じ好きなことをしてもらえよう本人の希望を取り入れながらその方のペースで自由に過ごして頂けるよう心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時におしゃれをされる方には、自分で服を選んで頂き、季節に合った装いのアドバイスをしている。希望により訪問美容を利用してカットをされる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季を感じてもらえるように旬の食材を取り入れ、好みを把握しマイペースで食べて頂いている。一緒に外食を楽しむこともある。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の配食サービスを利用して栄養バランスの取れた食事を提供している。水分量や食事量は毎日の記録に残されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、口腔ケアを実施している。個人の状態に合わせて見守りや介助を行っている。義歯は夜間に洗浄を行っている。年に1度歯科検診を行い、治療が必要な方は訪問治療も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態を把握し、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。カンファレンスを行い全職員でオムツ外しに取り組んでいる。又排泄補助具に関する研修に参加している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を把握し栄養状態や水分摂取状態に留意し、毎日体操や散歩などで適度な運動ができるよう支援している。必要に応じてかかりつけ医に相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に合わせてられるよう、午前・午後の入浴支援を行い、拒否がある場合は無理強いせずに時間を置き再度声掛けをしたり、工夫や会話などで気持ち良く入浴して頂けるように声掛けをしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	脳トレ、リハビリ、ボール蹴りなどや天気の良い日は外気浴、散歩などを行い、頭や体を使って安眠できるように繋げている。必要に応じて医師に相談し、状態に合わせて、薬剤で調整を図り、安眠できるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに各自の内服情報を保管し、変更があった場合はスタッフ全員で情報を共有している。内服は管理箱を用意している。服薬時は、名前を声に出し、必ず確認するようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	拭き掃除や洗濯物干たたみなどの手伝いをお願いしている。ハンドベルの練習や塗り絵計算問題などをおやつ後に個別に行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は散歩などを行い、本人のストレスが溜まりにくいようにしている。イベントや行事でも外出し、誕生日などは家族にも協力してもらい出かけている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	昔からの習慣で、小銭程度のお金を持っておられる方もいる。スタッフと一緒に外出した際は希望のものを選び購入されることもある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話希望の際は、スタッフが掛け取り次ぎを行っている。手紙のやり方には、本人に書いて頂きスタッフが出しに行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、プランターを置いて季節の花を植えている。廊下には行事等の写真を飾ったり、手作りの飾りをつけている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、入居者全員が座れるソファがあり、TVやDVD、CDを観たり聴いたりしながら、入居者同士の会話を楽しませている。ウッドデッキや玄関前にも椅子を置いて、いつでも外気浴が出来るようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを家族に持ってきてもらい使用するようにしている。本人の希望を尋ね家具配置をしている。居室の壁には、家族との写真や絵を飾っている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・居室・トイレ・浴室には手すりを設置している。夜間トイレ誘導に小ライトを設置。居室内の電灯も2段階に調整できるものを設置している。玄関前には椅子を置きいつでも利用できるようにしている。		